

第3学年 算数科学習指導案

指導者 周南市立岐山小学校 教諭 兼石淳一郎

- 1 単元名 重さを調べよう
- 2 主眼 重さ比べを通して、任意単位による重さの測定の仕方が分かり、重さを数値として表すことができる。
- 3 準備物 てんびん、任意単位にするもの(クリップ、おはじき等)、ワークシート
- 4 展開 (全7時間 本時 1/7)

学習活動・学習内容	予想される児童の反応	教師の働きかけ
1 長さの調べ方を振り返る。 ・ 直接比較 ・ 間接比較 ・ 任意単位による比較 ・ 普遍単位による比較	長さは2つを並べて比べたね。 物差しを使ったらわかるよ。 消しゴム何個分という調べ方もあったな。	2つの物を提示し、比較できることを自由に発表させる中で、量の測定に焦点化する。 長さの調べ方を取り上げながら、関連してかさの測定の仕方にも触れることで、測定の4段階及び普遍単位の意味について振り返ることができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> どちらが、どれだけ重いか比べ方を考えよう </div>		
2 重さの比べ方を工夫する。 ・ てんびんの活用の仕方 ・ てんびんによる重さの直接比較の方法 ・ 重さの数値化の方法 ・ 任意単位にする物の選択	手に持っただけではあまり重さが違うように感じないなあ。 シーソーと似ているね。重たい方が下がるんだ。 同じ重さなら、棒が真横になるんだね。 長さのときのように、同じ物を何個かで表せばいいね。 どんな物を使って重さを調べたら、違いがはっきりわかるかな。	五感による重さの比較の曖昧さを意識できるようにするために、手に持って重さの違いを予想させる。 重さを調べる道具として「てんびん」を提示し、直接比較を教師が示すことで使い方を確認する。 任意単位で測定するごとに、その任意単位で測定して便利だったことや、不便だったことを記録させることにより、測定することの意味に目を向けることができるようにする。 活動が停滞している児童には、他の児童の活動を紹介したり、任意単位となるものを示したりして、活動の見通しを持つことができるようにする。 重さの異なるものを組み合わせ、てんびんを釣り合わせようとしている児童に対しては、長さの測定の場を再度振り返らせる。 一人に複数の任意単位による測定を行わせ、その中から自分にとってよりよいものを選択させることにより、単位量とするものの適切な大きさに目を向けることができるようにする。
3 重さ比べをした結果を発表しあう。 ・ 選択した任意単位の適切さ ・ 普遍単位の必要性 ・ g(グラム)	小さなものだと違いがはっきり出るけど、数が多くなるなあ。 大きなものだと少なくてすむけど、ぴったり合わないことがある。 みんなが同じ物で調べた方がいいなあ。	(評)自分が選んだ任意単位で重さの違いを表すことができたか。(ワークシート、活動の様子) 任意単位による結果のみを発表させ、どんな物を任意単位に選択したのかを話し合わせることで、任意単位選択の適切さに目を向けることができるようにする。 各人の任意単位による測定のよさを認めながら、重さの違いを正確にかつ簡単に伝えるためには、共通したものが必要であることを確認し、次時への課題としてつなげたい。

